

の第一問題を明らかにせられたことは、本書の讀者にとつて、最も有益なる點と信するのであります。

章を分つこと十二、頁數三百二十四、行文流麗にして叙述懇篤。近來往々にして粗雜不親切なる

出版物尠からざる中に、實に稀に見る眞面目なる

好著といふべきであります。時恰かも燈下書に親しむべきの候、之れを廣く諸君の机上にすゝめ度いと思ふのであります。

(定價金一圓二十錢、東京日本橋區大傳馬町内田老龜園刊行)

## 保育入門 (九)

倉橋惣三

### 九、幼稚園教育の方法

#### 第三、其の手段

(一般論——音樂論)

自發遊戲を其の基本とし、遊具を其の材料とする幼稚園教育法の研究は、すなはち其の適當なる手段の研究である。而して其の目的を達するに有益なりと認むるあらゆる手段を採り用ひて怠るまじきである。

幼稚園教育上の手段に就て、往々にして左の如き誤解が行はれることがある。先づ之れを匡して置かなければならない。

(一) 幼稚園教育法の各項目として行はるゝ處のものは、學校教育に於ける教科とは大に性質を

異にするものである。即ち教科に於ては、教育學上に所謂形式的目的も重要なことではあるが、寧ろ各教科の實質的目的が缺くべからざる目的となつて居るのである。謂は、教科それ自身を授與することが目的なのである。如何に極端なる教授上の形式論者と雖も、此の目的を無視することは、學校教育としては許さざるべからざるとである。

然るに、幼稚園教育に於ては、教科として夫れ自身を教授することが目的ではないのであつて、どこ迄も手段として用ゐらるゝのである。之れを更に具體的に説明すれば、假令ば幼稚園に於ても小學校に於ても、同じく唱歌があり圖畫があり手技がある。しかも其の名稱が相同うせらるゝ丈けであつて、其の性質は決して同一ではない。勿論唱歌、圖畫、手技そのものに異なる處はないのであるが、小學校に於ては教科として撰擇せられ、幼稚園に於ては手段として採用せられて居るのである。従つて幼稚園に於ては、如何に唱ふべきか、如何

に描くべきか、如何に型かたどるべきかといふことよりも、唱歌、圖畫、手技等によつて、如何に幼稚園教育の目的が達せらるゝかといふことを主にして居るのである。但し結果としては、唱ふこと描くこと型かたどることに熟練もあらはれ、技巧も生ずるには相違ないのであるが、それは決して目的ではない。のみならず、斯くの如き結果のために、手段としての本來の目的が些少にでも犠牲に供せらるゝことを、最も懼れて居るのである。

(二) 學校教育の教科は、それ自身が目的であつて見れば、其の種類は確定的なものである。時代によつて教科の種類に變遷はあるとしても、定められた丈けの教科は必ず教授せられなければならない。又濫りにその以外のものを教科として加へ用ふることを許されない。しかし、幼稚園教育法の手段は、それ程確定的なものではない。換言すれば、何と何をを用ゐなければならぬと規定せられて居るものではない。又普通其の項目が理

論的に、或は習慣的にきまつて居るにしても、その他の手段を用ゆるに何の不可はないのである。現に我國法令の規定が極く大綱を示すに止まつて、その細目にまで及ばず、大に教育者其の人の自由の餘地を與へてあることは、頗る其の當を得たものといふべきなのである。或は此の法令の大綱に止まるを以て、幼稚園教育令の不完備なりとし、之れを彼の小學校令殊に其の教授細目の如く周到綿密些の間隙も存せざる如きものに改正した方がよいと考へられないこともないかも知れない。しかし、決して左様の性質のものではない。實に幼稚園教育は、そんな窮屈なものではないのである。即ち幼稚園教育者は、自己の識見と經驗と、而して不斷の考案と工夫とを以て、手段の活用を怠るまじきものである。

以上二つの點は、極めて自明の理でありながら、展々誤解せられて居る。誤解せられないまでも、甚だ不透明な考へ方をせられて居る。其の爲に、

幼稚園教育方法の研究が、甚だしく其の正しい方針を誤らるゝことがある。研究、熱心、益々大なるに従つて、迷路に入ること益々深しといふ様な意外の弊を生ずることさへもある。假令ば唱歌の研究が幼稚園教育本來の意義を忘れた唱歌教授になり、圖畫の研究が、其の何の爲の手段たるかを忘れた技術教育になつたりする如き、必ずしも稀なことでもない。之れを熱心といへば言へないこともなからう。併し幼稚園教育としては邪路なのである。

用意の誤りは不用意の誤りよりも却つて其の害が大いなるものである。幼稚園教育法の誤謬、實に此の誤りの如く甚しいものはない。過ぎたるは及ばざる如しといふが、之れも或は其一つかも知れない。而して、茲が實に幼稚園教育法研究の最も六かしい點であるとも言ひ得る。不熱心では勿論濟まない。しかも熱心過ぎて其の限度を超え、規範を脱しては尙ほならない。しかも熱心になる

と、つい其の規範を超え易い。幼稚園教育者の深く考へなければならぬのは、此の點である。幼稚園教育者に明瞭透徹な頭腦の必要なのも此の點である。他の教育と異つた別個の習練を要するのも此の點である。

然らば、何にその規範を置き、何をその限度とするかといへば、すなはち幼稚園教育の原則として擧げた處の四ヶ條に準據する他はないのである。

詳言すれば、一方には如何にして四原則を充分發揮せしむべきかを考へて、その爲に適當なる手段を活用するに怠る處なく、又一方には、如何なる手段によるも、又その結果として假令如何なる點に到り得べきものなりとするも、必ず常に此の四原則の埒を脱すまじきことである。

而して、斯ういふ立場から、幼稚園教育に適當なりと思惟せらるゝ手段の主なるもの數頂に就てその特に幼稚園教育の手段として有する價值を明

かにして、正しい教育法の指針に供しようと思ふ。

## (一) 音樂

幼兒の生活をして最よく自發的ならしめ、相互的ならしめ、而して其の教育的効果の最も具體的にして習慣的なるもの、實に音樂の如きはない。

單に幼兒教育の上のみならず、廣く人生に於ける音樂の力及び其の價値の實際上及び理論上認めらるゝ所以も亦、要するに此の四つの點にありと言ひ得るのである。古來宗教上の儀禮に必ず音樂の伴ひ、高尚なる性情陶冶の方法として音樂が重せらるゝ、皆此の故に他ならない。音樂が幼稚園教育法の手段として用ゐらるゝも亦、此の貴重の本質によるのである。

(い) 蓋し、音樂は幼兒の心身を促し動かして、生々發瀾の状態に導くと共に、更に其の心性の奥底に潜むあらゆる美しきものを誘ひ來る。すなはち、沈靜を活動にかへ、潜在を表顯に移すのであ

る。其の強き力は昔から屢々神秘的と考へらるゝ程である。

彼の自發力に於て缺陷の甚しい白痴兒の如きものでさへも、音樂の力は著しく作用して其の精神の活動を促すものである。況んや普通の幼兒に於てをや。閉ぢた心は開かれ、縮んだ筋肉は伸びて來る。其の音が有する勇ましき、優しき、崇高なる、それ／＼の響は、幼兒の心のそれ／＼の諸感情に共鳴して、或は激越に、或は徐々に、之れを波立たせ、又は流露せしめて來る。實に、音樂を唱ふ時は勿論、聽く時に於ても、幼兒の心は盛なる發動の態度にある。すなはち最も豐なる自發の狀態にあらしめ得るのである。

(ろ) 音樂の相互的影響力に至つては、更に又著しいものがある。蓋し音樂が有する律動の力は、之を聽くもの唱ふるもの、小さい個性の隔壁を除き去つて、相互に相溶和せしめざれば己まない。樂譜に連れて舞ふ足どりは揃はざるを得ず、合唱

の聲は感激も詠嘆も共に一つの心に相和せざるを得ない。小さく我れを守り、頑に他を斥ける如き性情の幼兒と雖も、音樂の前には、識らず／＼友の手をとり、おのづから笑み交はす様になる。話しかけ問ひかけては決して答へない沈黙兒も、歌でさそへば相和して來る。此の相互的親和力に於て、恐らく何ものも音樂に優るものはない。

(は) 音樂は精神の未だ分化せざる狀態に於ける發表である。美しきものに對し、崇高なるものに對し、親しきものに對し、其の態度を理性の言語を以て發表すれば説明になる。説明は抽象である。音樂は、其の態度そのまゝの發表である。抽象の餘裕もなく其の時の我れを其のまゝに投げ出したのである。即ち最も具體的である。更に之れを逆にして、音樂から引き起さるゝ我れの態度も亦全く非分化の我れ其のものであつて、最も具體的なものである。他の言葉を以ていへば、考へることゝ感ずることゝが分れない混一たる態度に居

るのである。従つて、音樂から得來る處のものは考へて後感じ、感じてから考へるといふ如き二段の手續きを踏むことなくして、精神全體が之れに反感するのである。

(に) 音樂の情緒的基調を養ふに最適なることは、以上三つの點よりも尙著しいことである。即ち、其の感化は、理解を経ずして直接に性情の中心に入るものであつて、理外の勢力を最も底深く浸潤せしむるものである。即ち其の音調は、最もよく記憶せられたる觀念よりも固く、最もよく反復せられたる動作よりも深く、其の將來の生活を支配して、常に生涯の基調をなすものである。昔唱ひなれた歌の譜は、何故といふことなく、人を昔の心に返すものである。素より理解や確信の如く明瞭にして顯著なるものではないが、それだけ亦浸み込み、浸み渡る強い力をもつて居るものである。

音樂の力斯くの如く、幼稚園教育法の手段として適當なる所以茲にありとすれば、幼稚園の音樂は、此の意味に於て最もよく利用せられなければならない。而して其の注意要項の二三を擧ぐれば次の如くである。

(イ) 正しく唱ひ、巧みに唱ふことも素より大切であるけれども、之れが爲めに自由自然なる感激を犠牲にしてはならない。感激を伴はない唱歌は空虚である。空虚なる音樂は無益なるのみならず却つて有害である。其の反對に、感激の發露でさへあれば、その第一義に於て實に立派な音樂である。而して、幼兒をして音樂を空虚ならしむるもの、餘りに早く初められ且つ餘りに嚴格なる音階の練習の如きはない。音譜練習の苦を與へられて、音樂は窮屈なものになる。心には唱ふても聲に出なくなる。遂には心にも唱へなくなる。

(ロ) 音樂をして空虚ならしめぬ爲めには、虚偽の感情を唱はせてはならぬ。幼兒の經驗もしば

